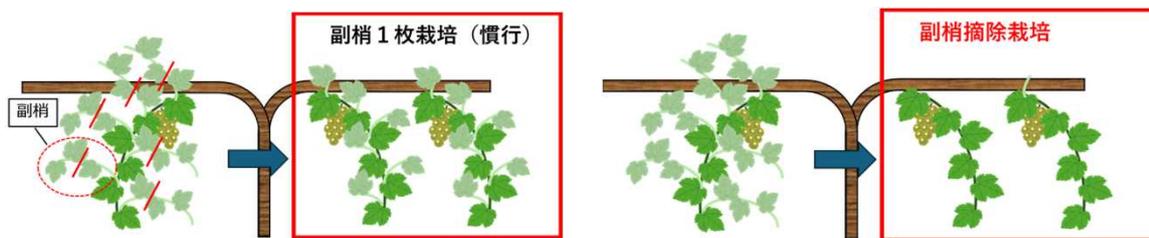


# ブドウ「シャインマスカット」の副梢摘除による副梢管理作業の省力化

副梢摘除栽培の副梢管理作業は、慣行栽培の約半分となり、果実品質に影響しません。

## 背景・目的

- 「シャインマスカット」は樹勢が強く、副梢の発生が旺盛なため、副梢管理に時間を要することが問題となっています。
- 副梢管理の省力化を図るために、副梢を摘除し、本葉のみで管理した場合の作業時間と果実品質へ及ぼす影響を検討しました。



注) 1 【副梢】・・・結果枝の葉の付け根の脇芽から発生する新梢  
 ・そのままにしておくと、過繁茂による日照不足や果実との養分競合により、品質に悪影響  
 注) 2 【副梢管理】・・・余分な副梢の葉を除去し、維持する管理  
 ・通常、葉数確保のため、副梢の葉を1枚程度を残して摘心  
 ・副梢や副々梢は再発生するため、開花後から収穫後（5～8月）までの長期的な期間で、定期的な副梢管理が必要

## 成果の内容

- 開花から収穫までの副梢摘除栽培の副梢管理時間は、再発生する副梢の総数及び総新梢長が、副梢1枚栽培よりも減少するため、同栽培の56%程度となります（表1、図1）。
- 果房重500g程度の結果では、糖度や果粒重等の果実品質に大きな差はありません（表2）。

表1: 副梢処理の違いが開花後から収穫までの副梢管理時間に及ぼす影響

年度	試験区	1樹（10㎡）当たりの副梢1枚区に対する副	
		梢管理回数（回）	合計副梢管理時間（分）
2021	副梢摘除区	4	41.0
	副梢1枚区	4	73.5
2022	副梢摘除区	4	42.1
	副梢1枚区	4	75.5

注) 作業時間は一人当たり 各区2樹の平均時間

表2: 副梢処理の違いが果実品質に及ぼす影響

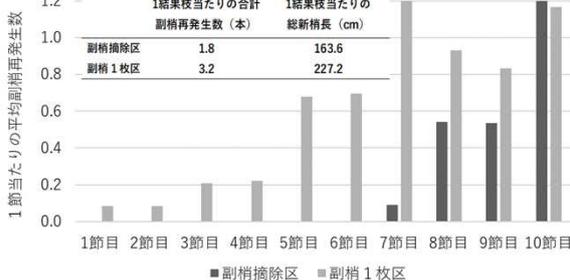
年度	試験区	1樹収量 (kg)	果房重 (g)	粒数 (個)	果粒重 (g)	果皮色 <sup>z</sup> (c.c.)	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	縮果症 (粒/房)	未熟果 (粒/房)	かすり症 <sup>y</sup>
2021	副梢摘除区	16.5	544.6	42.3	13.4	2.7	18.2	0.25	0.2	1.4	1.2
	副梢1枚区	16.8	560.4	43.5	13.6	2.5	17.3	0.29	0.6	2.7	0.7
2022	副梢摘除区	16.2	541.9	43.5	12.9	2.6	18.9	0.21	0.0	1.7	0.1
	副梢1枚区	15.9	503.2	43.6	11.9	2.8	19.2	0.21	0.2	0.8	0.2
有意性 <sup>x</sup>	年次	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*
	副梢処理	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	**	n.s.	n.s.	**
	年次×副梢処理 (相互作用)	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*

注) 収穫日 2021年8月11日 2022年8月17日

z: 緑(0)～黄(5)、シャインマスカット用カラーチャート(山梨県)

y: かすり症は0～4の5段階評価で、0(無)、1(商品性問題なし)、2(やや影響あり)、3(影響あり)、4(商品性なし)とした

x: 年次と副梢処理の二元配置分散分析により、\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意差があることを示し、n.s.は有意差なし



注1) 1区2樹9～12結果枝の平均

注2) 調査日2022年7月28日(4回目の副梢管理時)

図1: 副梢処理の違いが結果枝節の副梢再発生数及び総新梢長に及ぼす影響(2022年)

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 作業省力化により適期管理が可能で、高品質な果房生産による所得向上が期待できます。
- 普及対象地域・面積 県内の「シャインマスカット」栽培農家 16ha

## 留意点

- 果房重500g程度、換算収量1.6t/10aでの結果です。
- 副梢摘除栽培は葉数が少ないため、副梢管理時や病害虫によって本葉を損なわないようにします。

関連研究成果カード：2023年度前期 番号13、

関連事業名：宮崎の「シャインマスカット」を支える高品質・省力栽培技術の開発事業（県単） 研究期間：2021～2022年度